

No. (38) 平成30年度 地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業成果報告書

事業名称	たつの芸術村事業		
実行委員会	たつの芸術村事業実行委員会		
中核館	辰野美術館		
	住所	〒399-0425 長野県上伊那郡辰野町樋口 2407-1 辰野美術館内	
	TEL	0266-43-0753	FAX 0266-41-4572
	ホームページ	http://artm.town.tatsuno.nagano.jp/	
構成団体	信州豊南短期大学、小野地区振興会、辰野町公民館、辰野町、辰野町教育委員会		
事業開始時点の課題分析	昭和初期に辰野町内で発見され、辰野美術館が長く展示公開してきた仮面土偶(長野県宝指定)は、近年土偶に関心が高まる中でもあまり知られていない。そこで、この土偶をモチーフにさまざまな普及啓発活動を展開し、親しまれるものとして行きたい。		
事業目的	仮面土偶が多世代に身近に親しまれるものとしていくために、各種の普及啓発活動を企画実施し、縄文時代の暮らしと信仰に理解を深めるとともに、造形性にも注目したワークショップ等の活動を進める。		
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仮面土偶のレプリカを製作し、小中学校や短大への「土偶スクール」出張開催等で活用。</li> <li>・日本一長い愛称が決まった仮面土偶のキャラクターデザイン募集と決定。</li> <li>・乳幼児対象の手形制作ワークショップ「千人手形」の随時開催。</li> <li>・仮面土偶を紹介するポスターの製作と配布。</li> </ul>		
実施項目 ・ 実施体系	<p>(1) 地域文化の発信の核となる美術館・歴史博物館</p> <p><input type="checkbox"/>ア 美術館・歴史博物館の情報発信、相互連携</p> <p><input type="checkbox"/>イ ユニークベニューの促進</p> <p><input type="checkbox"/>ウ 地域のグローバル化拠点としての美術館・歴史博物館</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>エ 地域に存する文化財を活用した地域共働の創造活動や地域の魅力の発掘・発信</p> <p>(2) あらゆる者が参加できるプログラム及び学校教育や地域の文化施設等との連携によるアウトリーチ活動</p> <p><input type="checkbox"/>ア 小・中・高等学校と連携した地域文化の担い手の育成</p> <p><input type="checkbox"/>イ 大学等と連携した国内外で活躍する文化人材育成プログラムの開発</p> <p><input type="checkbox"/>ウ 社会人ほか多様な対象者のための学習講座の実施</p> <p><input type="checkbox"/>エ 障がい者の芸術活動支援・鑑賞活動支援等の事業</p> <p>(3) 新たな機能を創造する美術館・歴史博物館</p> <p><input type="checkbox"/>ア 観光・まちづくり・国際交流・福祉・教育・産業等他分野との連携・融合による活動</p> <p><input type="checkbox"/>イ 文化財の新たな保存管理・活用の手法の開発</p>		
実施後の成果・効果等	<p>辰野美術館所蔵仮面土偶のレプリカを製作し、このレプリカの活用を軸に、出張講座や手形制作ワークショップなどを展開し、縄文土偶とその時代への多世代の関心を高め、理解を深めることができた。</p> <p>また、本土偶のキャラクターデザインの募集と採用は、小学生から短大生までの若年層の関心を高めることができた。</p> <p>土偶PRポスターの製作、配布は、当館所蔵土器の県宝指定やテレビ番組による「日本の中心」アピールとも重なり、土偶への注目を集めた。</p> <p>今回、縄文土偶とその時代に対して一層関心が高まり、今後も親しまれる活動の継続が望まれている。</p>		

## 【事業実績】

### 1. 仮面土偶のレプリカ製作と土偶スクールの開催

- ・当館所蔵の仮面土偶のレプリカを製作し、小学校や短大、高齢者施設などへの出張講座「土偶スクール」で活用し、土偶とその時代への関心を広げ、普及啓発の効果を高めることができた。
- ・また、小学校の「読み語り」の朝学習において、本土偶をモチーフに子ども向けのお話をボランティアの保護者が創作して朗読し、多層的な成果を得ることができた。
- ・本レプリカに触れるとともに、文様などの造形表現を間近に観察し、土偶制作ワークショップ(町公民館と共催)の際に生かすことができた。
- ・当館開催ひな人形展の中で、縄文食と出産、現代の高齢化などに意識を向けたジオラマ風展示に本レプリカを使用し、好評を得た。多世代にわたる関心を高め、少子高齢化の時代を考える機会となった。

### 2. 仮面土偶のキャラクターデザイン募集と決定

- ・仮面土偶のキャラクターデザインを募集し、200人、200件の応募の中から、審査により採用案を決定した。募集の過程で本土偶に対する関心が高まった。デザイナーに依頼してデータ化し、商標登録申請を行なうことができた。

### 3. 縄文手形制作ワークショップの開催

- ・小学生以下乳幼児までの子どもを対象に縄文風手形の制作ワークショップを開催し、若年家庭層への普及啓発を広げることができた。2点制作し、1点を当館へ預けることで、土偶や縄文時代に対する意識や関心を将来にわたって持ち続ける契機となった。

### 4. 仮面土偶の紹介ポスター製作と配布

- ・30年度に新たに長野県宝に指定された縄文土器3点と合わせてデザインし、仮面土偶のPRポスターを製作して、町内外、県外へ配布した。「縄文ブーム」や国立博物館での「縄文展」開催、テレビ人気番組で当町が「日本の中心」として紹介されたことなどもあり、辰野美術館への土偶の問合せや来場が増加した。

